

家人に感謝

3月初旬、家人が卓球中に転倒、左大腿部頸部骨折で入院手術、1か月以上経った今もリハビリで入院中です。私はコロナ禍の中、在宅ワークが増え、家事の大変さは感じていたのですが、突然家人が居なくなって、仕事をしながら家事をするのは本当に大変なことだと痛感しています。

一口に主婦の家事と表現するとその大変さは分からない男性の方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。今までほとんど自分がやっていなかったことで、毎日どんなことをやっているのか書き出してみます。

自分の身づくりの時間は別にして、①朝起きて寝具を整える、②雨戸を開ける、③窓を開け空気の入替え、④食事の献立を考え支度をし、食事をする、⑤ゴミ出し(分別とゴミ出し日がある)をする、⑥新聞の取り入れ、⑦洗濯(ネットに入れての仕分け、洗剤の注入)⑧ベランダに干す、⑨朝食後の食器洗い、⑩生ごみの処理、⑪掃除(室内、玄関回り)、⑫献立を考え買い物、⑬クリーニング出し、⑭クリーニング引き取り、⑮昼食の準備、⑯昼食後の洗い物、⑰洗濯物の取入れ、⑱洗濯物の分別収納、⑲植木の水やり、⑳夕食の準備、㉑お風呂の準備、㉒夕食後の洗い物、㉓入浴後の掃除、㉔戸締り、㉕寝る準備(寝具・パジャマ等)、他に靴磨き、冷蔵庫内チェック、各部屋のゴミ集め、夕刊、郵便物の取入れ、宅急便の対応、セールスの対応、回覧板の対応、郵便・宅急便出し、銀行の振込・引き出し、日用品の買い物、コーヒブレイクの準備片付け、入院中の衣類の洗濯交換・届け物等々、気遣いや考える時間も入れて時間測定すれば、少なく見積もっても毎日5時間超はかかっています。

今回のこの経験で家人の家事の大変さがわかり、感謝するとともに、仕事を持ちながら家事もこなしておられる方々の大変さがよくわかりました。

同時に高齢期になった時の終活のひとつになるかもしれませんが、こういう不測の事態が起きた時に備えて、特に男性は家事の分担や何でもできるように、家の隅々に気を配って、準備と心構えを持っておこなうてはいけないと強く思っています。



感謝

長嶺 堅二郎

